



平成21年春季特別展

大奥

- 会場 企画展示室・松平家史料展示室
●会期 平成21年3月21日(土)～5月6日(水)(振替休日)
但し、4月13日(月)は展示替えのため休館します。

大奥とは江戸城の中で、正室をはじめ將軍家に仕えた女性や子たちが日常の生活をおくった場所です。幕末まで続いた大奥の歴史は、現存する史料が少ないためにあまり多くを知ることができません。しかし、そこに生活していた將軍の正室らが遺した品々からは、大奥での暮らしぶりを垣間みることができます。そこで、本展では、財団法人徳川記念財団をはじめ出品者各位のご協力により、十三代將軍徳川家定の正室天璋院(篤姫)や、十四代將軍徳川家茂の正室和宮の遺品を中心に、大奥にまつわる品々を展示します。また、十六代福井藩主松平春嶽が記した大奥に関する希少な記録や、福井藩の奥向きにもスポットを当てて紹介しました。こうした一級の史料を通して、大奥の華やかな暮らしや女性たちの人間模様に思いをはせていただければ幸いです。

1. 大奥のしくみ

「大奥」とは江戸城の中で將軍の家族が住む場所をいいます。正室は本丸、生母は二の丸、子たちは西の丸の大奥に暮らしていました。その内部は現代でいう住居部分・事務所・奥女中の宿舎からなっています。そこに働く奥女中はそれぞれの大奥にあって、主人のもとで、細かな職制に順って奉仕していました。では、大奥がどのようなシステムだったかをみてみましょう。



▲奥奉公出世双六

東京都江戸東京博物館蔵

大奥女中職制(主なもの)

職名	職務
上臈年寄	大奥の最高位。正室の実家より付きそう公卿の娘。実権は持たない。
小上臈	上臈年寄の見習いの少女。
御年寄	大奥の権力者で老中にも匹敵すると言われた。
中年寄	御台所御年寄の下で働く。毒見役でもあった。
御客応答	大奥の接客係。將軍の御成りや大名登城の接待。
御中臈	將軍や御台所の身の回りの世話役。將軍の御中臈から側室が選ばれた。
御小性	御中臈の見習い。高禄旗本の娘が務めた。
御錠口	御鈴廊下の監視役。將軍からの用件も取り次いだ。
表使	御年寄の指図で表とやり取りをする外交官的役割。
御右筆	文書係。献上品の確認や御年寄の進物の相談にも乗った。
御次	仏間・台所・御膳部などの道具係。催しの時に遊芸を演じる役。
御切手書	奥女中が入り出る七つ口という門の監視人。
御伽坊主	坊主頭に男性の格好した將軍付の雑用係。表へも行くことができた。
呉服之間	將軍と御台所の衣装をつかさどる裁縫部。
御広座敷	表使の下働き。来客への接待の際、雑用など。
御三之間	雑用・掃除係。
御仲居	御膳所で食事の準備一切を行った。
火之番	大奥の火の元を見回る。
御茶之間	湯茶の準備を行う。
使番	外部への使いや、進物・文書の受け取りなどを行う。
御半下	御末ともいう大奥の最下位の役職で雑用係。
宰相典侍	
女藏人能登	和宮が御所より伴った付き人たち。
三仲間	

職名などは『徳川礼典録』を元に制作

2. 大奥のくらし

大奥のくらしはどのようなものだったのでしょうか。ここでは、十三代將軍徳川家定の正室天璋院(篤姫)と、十四代將軍徳川家茂の正室和宮の遺品などを通して、大奥の生活を「衣装」「調度」「たしなみ」「年中行事」から紹介します。正室の暮らしには、起床から就寝まで、細かな順序と決まりごとがあり、それに加えて様々な催しや年中行事が行われ日々が流れていました。しかし彼女らの生活様式は、当時の高位の武家女性とほぼ同じものであり、衣装や調度などの種類や形にはさほど違いはなかったようです。

衣装

武家女性は、身分や季節、行事によって着用する衣装の色や種類、材質などが決められていました。そのため、いくつもの大名家に似たデザインの衣装が現存しており、特に江戸時代後期に多く見られます。しかしながら女性たちはその制限の中で、模様や色の取り合わせを考えて衣装をつくり、小袖と帯・装飾品の組み合わせで自分好みの装いをしていたようです。



▲萌黄縹子地雪持笹御所車模様小袖 天璋院所用 徳川記念財団蔵

調度

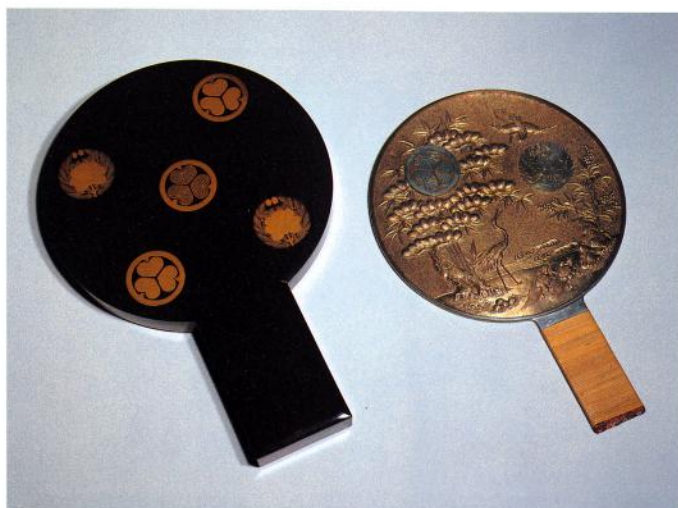
大名家や商家への輿入れの際、夫人は身の回りに必要なものを婚礼調度として整え、嫁ぎ先へと持参しました。蒔絵で実家の家紋(嫁ぎ先の家紋と両方の場合もある)を施した同じ意匠の道具類を多いときには数パターン、数百種も揃えました。ここに展示する天璋院の調度は、黒漆塗りに家紋が施された最もオーソドックスな意匠です。徳川家の葵紋と近衛家の牡丹紋が散らされており、婚礼調度であるとわかります。

【化粧道具】

当時の化粧道具の特徴は、鉄漿、うがい、髪の手入れ、眉を整えるなど手入れごとに専用の道具があることです。また化粧には、鉄漿の有無や眉の形、髪の結い方などで年齢や既婚・未婚・身分といった情報を示すという重要な役割がありました。



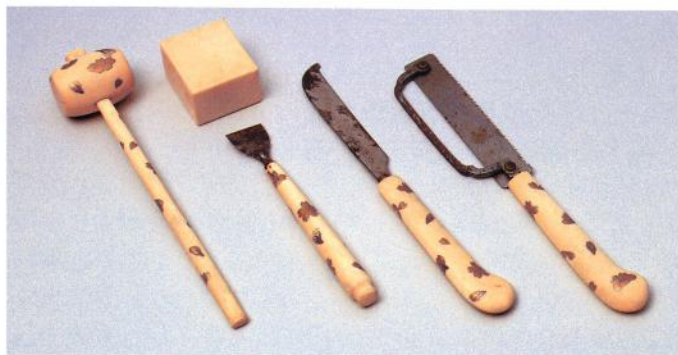
▲黒塗葵牡丹紋散蒔絵耳盥・輪台 天璋院所用
徳川記念財団蔵



▲黒塗葵牡丹紋散蒔絵柄鏡・鏡巢 天璋院所用 徳川記念財団蔵

たしなみ

武家の女性は様々な教養を身につけていることが求められました。書道はもちろん、和歌や絵、琴や茶道・華道・香道から武芸まで、幅広い知識と素養を身に付けるため、日々励んでいたようです。その様子は本人が遺した作品や使用した道具から想像することができます。それら様々な嗜みの道具は、必需品として婚礼調度にも含まれていました。



▲象牙製香割道具 伝和宮所用

徳川記念財団蔵

年中行事

大奥では正月や重陽の節句など、多くの年中行事が行われました。そのほとんどは大奥に暮らす人々のみの行事でしたが、三月三日の上巳の節句は特別でした。御台所らの数々の雛人形や道具が飾られ、それを見物するために奥女中が家族や親戚の女性を招くことが許されていました。



▲黒塗松唐草牡丹紋散蒔絵雛道具貝合わせ道具 天璋院所用
徳川記念財団蔵

【雛道具】

雛道具は雛人形に付属の道具ですが、江戸時代後期には持ち主の婚礼調度をそっくり縮小したものが多く作られました。ここに展示するのは天璋院の道具で、近衛家の牡丹紋が施されています。雛道具としては大ぶりで、細部まで精巧に作られており、婚礼調度の豪華さを彷彿とさせます。



▲黒塗松唐草牡丹紋散蒔絵雛道具黒棚・厨子棚・書棚 天璋院所用
徳川記念財団蔵

3.大奥の人々

大奥は江戸幕府を開いた徳川家康が作り、三代将軍徳川家光の時代にそのシステムが整えられ、江戸城開城まで続いたとされています。その間、多くの女性たちがそこで暮らしました。大半は記録が残っていませんが、大奥の実権や将軍の後継者問題などを巡って、様々な人間模様がそこに繰り広げられてきました。ここでは、大奥の歴史を作った人々を、遺品や肖像画などから紹介しています。



▲春日局像

徳川記念財団蔵

歴代将軍の正室・生母

	将軍	将軍法号	正 室	正室法号	将軍生母	将軍生母法号
初 代	家康	安国院	築山殿 朝日姫(旭姫)	西光院 南明院	於大之方	伝通院
二 代	秀忠	台徳院	達子、於江与	崇源院	西郷局	宝台院
三 代	家光	大猷院	孝子、中ノ丸	本理院	於江与之方	崇源院
四 代	家綱	厳有院	顯子、浅宮	高巖院	於楽之方	宝樹院
五 代	綱吉	常憲院	信子、従姫	浄光院	於玉之方	桂昌院
六 代	家宣	文昭院	熙子、照姫	天英院	於保良之方	長昌院
七 代	家継	有章院	八十宮、吉子内親王 (婚約者)	浄琳院	於喜世之方	月光院
八 代	吉宗	有徳院	貞宮、理子	寛徳院	於由利之方	浄円院
九 代	家重	惇信院	比宮、増子	証明院	於須磨之方	深徳院
十 代	家治	浚明院	五十宮、倫子	心観院	於幸之方	至心院
十一代	家斉	文恭院	寔子、茂姫	広大院	於富之方	慈徳院
十二代	家慶	浄観院	楽宮、喬子	浄観院	於楽之方	香琳院
十三代	家定	温恭院	任子、有姫 秀子、寿明姫 敬子、篤姫	天親院 澄心院 天璋院	於美津之方	本寿院
十四代	家茂	昭徳院	和宮、親子内親王	静寛院宮	みさ	実成院
十五代	慶喜	(神祇)	美賀子	貞肅院	登美宮吉子	貞芳院

4. 幕末の大奥と松平春嶽

幕末の江戸幕府は、外国船の来航や将軍の後継者問題など、大きな課題を抱えていました。この時代を生きた十六代福井藩主松平春嶽(慶永)は、十一代将軍徳川家斉と十二代将軍徳川家慶の近親であったことや、十四代将軍家茂のもとで大老職にあたる政事総裁職となったことなどから、幕府や大奥内に深く関わりました。春嶽が遺した記録類などからは、当時の大奥の様子を垣間みることができます。



▲ 繫菱花丸蒔絵料紙箱

福井市春嶽公記念文庫



▲ 『閑窓乗筆』

福井市春嶽公記念文庫

5. 福井藩主と女性たち

大名は、領地のある本国と、江戸を一年おきに参勤交代で行き来しており、江戸屋敷には正室と子たちが住んでいました。そして各大名屋敷は、藩主が仕事を行う「表」と、家族が住まう奥向きの「奥」の部分に分かれていました。また、いくつかの藩では、奥向きを特に「大奥」と呼んでいたことがわかっています。福井藩もその一つでした。ここでは福井藩主をめぐる女性たち、そして福井藩邸の「大奥」について紹介しています。



▲ 三州まつ平村あふひまめ 青松院所用 福井市春嶽公記念文庫



▲ 芳野(小出) 管子肖像写真
福井市春嶽公記念文庫

見どころ講座

「武家女性の衣装と道具」

日時：4月5日(日) 午後2時～

講師：高瀬 裕美(当館学芸員)

「松平春嶽と幕末の大奥 - 天璋院と八十瀬 -」

日時：4月12日(日) 午後2時～

講師：角鹿 尚計(当館学芸員)

【両日とも】 場所：2階講堂 定員：80名(当日先着順)

記念講演会

「江戸城大奥の世界」

日時：4月25日(土) 午後2時～

場所：2階講堂

定員：80名(当日先着順)

講師：東京都江戸東京博物館学芸員・
國學院大學非常勤講師 畑 尚子氏

『展示解説シート No.39』

平成21年3月21日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004

福井市宝永3丁目12-1

電話 0776-21-0489

Fax 0776-21-1489

担当：角鹿尚計、高瀬裕美

次回の展示 〈企画展示室〉 企画展「福井城跡発掘展 - 福井城下の唐津焼」〈松平家史料展示室〉「越前松平家の名品Ⅰ」

5月21日(木)～7月20日(祝)

5月9日(土)～7月5日(日)